

藤田湘子の四百句選 拾遺Ⅱ十九句 野本 京選

令和八年一月一日（2026.01.01）

子のために朴植ゑ五月慰むか	『雲の流域』	1	1	5
白鳥に餌撒き声かけ男さみし	『白面』	1	2	9
呼び馴れて女淡しや蝸牛	『狩人』	1	8	3
寒に生れ寒の蜩を吻すふも	『一個』	2	4	4
早梅やひらがなの名の吾子ふたり		2	4	4
虚空より色の流れて椿落つ		2	5	9
師の忌過ぎわが忌近づく濃あぢさゐ		2	8	7
冬用意してシヤンソンも絶やさずに		3	2	2
わが裸草木蟲魚幽くあり	『去来の花』	4	0	3
荒草は土をえらばず鰯雲	『黒』	5	1	8
兩眼の開いて終りし晝寝かな	『前夜』	5	6	7
友情のごときふぐりと春深し	『神楽』	6	3	6
海牛のなんと倅せさうな貌	『てんてん』	6	7	9
白日に蝶の交りしうつつかな		6	9	0
白椿落ちたる音に囚はれし		6	9	0
年移りをり我の名はわれのもの		6	9	6
鬼の死のこと伝はらず鬼やらひ		6	9	8
寒の梅心身とかく背き合ふ		7	0	7
狐火の傳くならば彼岸まで		7	1	5